

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2022年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務 飛散防止対策工			作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)	
工期	令和4年4月1日 ~ 令和6年4月1日			作成者	金子 歩夢	
作業名称	橋梁集水ますグレーチング飛散防止対策工		作業手順書	作成年月日	令和4年10月1日	
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	黄バト、連絡車、発電機(1.6KVクラス)パルーンライト			現場責任者		
				協力会社	会社名	
使用工具 機器 (大きさや寸法等は具 体的な寸法を記す)	フロアー、インパクトドライバー			協力会社責任者	目撃サイン	
	グラインドサンダー、ハンマードリル				作業順序	
保護具	安全靴、ヘルメット、安全チョッキ(点滅)、手袋、防護メガネ、防塵マスク、反射脚絆			1	準備作業	
				2	工事車両進入	
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	普通自動車運転免許			3	グレーチング固定ボルトの確認	
				4	集水ます枠清掃・防錆処理	
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	ボルトの確認:1~2名、集水ます枠清掃・防錆処理:1~2名、グレーチング取替:1~2名、 飛散防止金具設置:1~2名			5	グレーチング取替	
				6	飛散防止金具設置	
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)		周知会実施日	令和 年 月 日	7	清掃・後片付け
	(役割を確認してこの作業に関わる 全員が自筆サインする)					8
					9	

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目	手順	急所	リスクの洗い出し	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための実施すべき事項の特定(防止対策)
(誰が)	主なステップ	作業のポイント	(予想されるミス・ロス)						
準備作業									
ミーティング	健康状態の確認	作業責任者(職長)が確認							体調不良の作業員は規制内へ入場させない
	免許・資格等の確認	作業責任者(職長)が確認							
車両の点検・準備	KYMの実施	作業員全員で							
	車両の始業前点検、 工具の確認	運転手、全員							
	積荷の確認	積荷の状態	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○×	3	安	トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
工事車両進入	工事車両進入	指定の入口から	移動中一般車両と接触する。	○	△	○△	2	安	道路交通法を遵守する。区間内走行ルール・駐車ルールの厳守
工事車両進入	工事車両進入	指定の入口から	回転灯(500m前) ハザードの点灯(300m前)、進入時の方向指示、50km/h規制、幕の設置						
グレーチングボルトの確認	4つ角のボルトの確認	再設置が可能か目視や接触	再設置が可能ならば設置する。						
集水ますの清掃	枠の清掃	粉塵等が目に入る	人体の保護をしておらず目の炎症、失明する。	○	△	○△	2	安	防護メガネを着用する。
防錆処理	枠、グレーチングの防錆処理	スプレー缶が転がる	走行車に接触する	○	△	○△	2	安	腰袋を着用し、路面等に置かない方法をとる。
グレーチング撤去・設置	人力による撤去・設置	マス枠との接続	マス枠が錆膨張を起こしておりグレーチングが入らない。	○	△	○△	2	安	マス枠を少しケレンする。
飛散防止金具の設置	飛散防止チェーン、アイボルトの設置	ハンマードリルの使用	穴の大きさを間違えアンカーが効かない。	○	△	○△	2	品	アンカーの大きさと同径のサイズで削孔する。
飛散防止金具の設置	M字飛散防止金具の設置	下ますとグレーチングの結合	寸切ボルトのサイズが合わず、固定化されていない。	△	△	△△	3	品	あらかじめ、下ますとグレーチング間の長さを測量し墨出ししてから切断する。
清掃・後片付け	清掃・後片付け	残材、工具の忘れのないように							
	積荷の確認	積荷の状態	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○×	3	安	トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
現場離脱	工事車両退出	指定の出口で一旦停止	通過車両と接触する。	○	△	○△	2	安	通過車両の通行がないのを確認後退出。